

## SBIグループの進化を永続化させるために

## 社会の中のSBIグループ

SBIグループは本業の事業活動を通じて社会に貢献することを第一の目標とし、グループの成長が社会の発展および持続可能な社会の実現に寄与していくことを実証し続けていきます。そして、社会との連帯のうちにゴーイングコンサーンとして存在し、グループの進化を永続化させていきます。

## SBIグループが考えるサステナビリティ

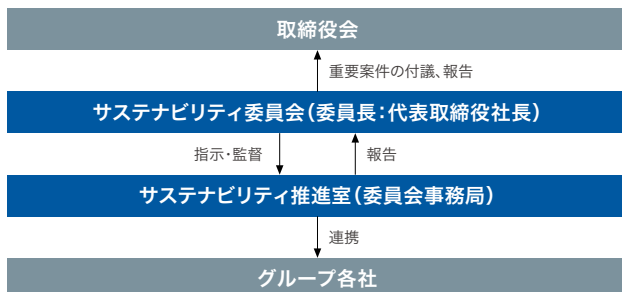
企業を取り巻くステークホルダー（利害関係者）とは、顧客、株主の皆さまや従業員だけではなく、これらに加え、一般消費者、取引先、あるいは広く地域社会などによって構成されています。

だからこそSBIグループは、企業の社会性を強く認識し、社会の維持・発展に貢献しなければなりません。そして本業の事業活動を通じて社会に貢献することを第一の目標とするのは当然として、より直接的にも社会に貢献するような戦略を構築し実践することで企業の社会性は持続的に高まると考えています。こうした認識に立ち、事業を営んでいく過程で社会的信用を獲得していくことが不可欠です。SBIグループは創業来、「顧客中心主義」の基本観に基づき徹底的に顧客志向型の事業を行うとともに、世の中の不条理な部分として見えてくる様々な社会課題を特に金融面で変え、新たな付加価値を創出し続けてきました。

これからもSBIグループは、社会との連帯のうちにゴーイングコンサーンとして存在していくために、サステナビリティの推進をより一層強化し、社会的信用の獲得に向けた事業を展開していきます。

## サステナビリティ推進体制

業務執行取締役で構成され代表取締役社長を委員長とする「サステナビリティ委員会」を当社取締役会の下に設置しています。同委員会は、原則年2回以上開催し、SBIグループの経営戦略の一環として、サステナビリティに関する戦略的な取り組みを議論し決定するだけでなく、取り組み状況の確認・審議を行い、その内容を必要に応じて取締役会に報告しています。また、同委員会での審議を経て決定されたサステナビリティ施策を、同委員会の事務局を担う「サステナビリティ推進室」を通じて、グ



ループ各社に連携しSBIグループ全体に展開・推進しています。

当社はこのように、社会課題の解決による持続可能な社会の実現と、持続的な企業価値向上の両立に向けた適切な体制を整え、施策の更なる実効性を確保しています。サステナビリティ委員会は、2022年度においては2回開催しています。

SBIグループのマテリアリティ  
(持続的な企業価値向上のための重要課題)

SBIグループは、社会との共生により持続的に成長するため、事業を通じて取り組むべき課題を抽出するべく、GRIスタンダードや「持続可能な開発目標（SDGs）」などの国際的な枠組み・ガイドラインを踏まえ、「解決すべき社会・環境課題」と「SBIグループの企業価値向上」の両軸で事業機会とリスクを整理しました。そして、「SBIグループのマテリアリティ（持続的な企業価値向上のための重要課題）」として策定しています。

なお、本マテリアリティについては、中長期的なグループ経営戦略の変更や刷新、社会情勢の変化等を踏まえ、継続的に見直しを行っていきます。

## マテリアリティの特定プロセス

## STEP 1 社会課題の抽出

- 中長期的な社会動向、国際的な枠組み・ガイドライン、SBIグループの方向性等を踏まえて社会課題を抽出。

## STEP 2 社会課題の重要性評価

- 社会にとっての影響度やステークホルダー（株主・顧客・取引先・従業員・地域社会／NPO）からの意見などに基づいて、社会的要請と経営的要請の観点で「ステークホルダーにとっての重要性」を評価。
- 「経営理念」や「事業構築の基本観」「ビジョン」「企業観」および社内主要部署へのヒアリングに基づき「SBIグループの事業との関連性（重要度）」を評価。

## STEP 3 優先的に取り組むべき重要課題案を策定

- STEP 2の評価結果をもとに、サステナビリティ推進室にて「課題解決に向けてどのような貢献が可能か」「課題解決に向けた取り組みが中長期的なグループ戦略とアラインするか」等の妥当性の観点から各事業の該当施策と照らし、優先的に取り組むべき重点分野および重要課題をマテリアリティ案として策定。

## STEP 4 経営層による議論と決定

- 代表取締役社長が委員長を務めるサステナビリティ委員会で議論を経て、決定。サステナビリティ委員会での決定事項については取締役会への報告も実施。

| マテリアリティ                     | 取り組み事例                                                                                                                                                                                                                               | 目標(KPI)                                                                                                                                                                                                            | 2023年3月期実績                                                                                                                                                   |
|-----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 新たな社会潮流や顧客ニーズを捉えた付加価値の創出    | <ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりのライフスタイルに沿った資産形成機会の提供</li> <li>顧客便益性を一層高める金融サービスの提供</li> <li>デジタルアセットを基盤とする企業生態系の構築</li> </ul>                                                                                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>お客さまサービスにおいて顧客満足度評価など第三者による評価で高水準を維持する</li> <li>SBI証券でのネオ証券化は、2024年3月期上半期中の具現化を目指す</li> </ul>                                                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>外部評価機関からの高評価<br/>→ P.08</li> <li>ネオ証券化の早期具現化に向けた、SBI証券の営業収益に占める、オンライン取引による国内株式の委託手数料の比率の低減(2023年3月末で11.2%)</li> </ul> |
| 新産業の育成と技術革新への貢献             | <ul style="list-style-type: none"> <li>21世紀の中核的産業の創造および育成</li> <li>革新的な金融サービスの提供</li> <li>業界横断的な技術の拡散</li> </ul>                                                                                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>最先端のサービス・テクノロジーへ投資を行う1,000億円規模の新ファンドを2023年度に設立する</li> <li>セキュリティ・トークン(ST)等の次世代金融商品の普及に向けて、ST流通市場を2023年内に創出</li> </ul>                                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>STを取り扱う国内初のPTS(私設取引システム)を目指す大阪デジタルエクチェンジ(ODX)が2022年6月27日に営業を開始</li> </ul>                                             |
| ステークホルダーと協働した社会課題の解決と経済の活性化 | <ul style="list-style-type: none"> <li>地方創生に寄与する事業の推進</li> <li>パートナー企業とのアライアンスの拡大と深化</li> <li>価値共創によるイノベーションの促進</li> </ul>                                                                                                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>日本全国の事業承継支援のため、2025年までに累計で1,000億円規模のファンド設立を目指す</li> <li>地域金融機関のシステムコストの削減および平準化に向けて次世代バンキングシステムを開発し、2030年度までに地域金融機関10行での導入を目指す</li> </ul>                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>SBI地域事業承継投資では累計約400億円のファンドを設立</li> <li>次世代バンキングシステムの導入内定行数2行</li> </ul>                                               |
| 豊かで健康的なサステナブル社会の実現          | <ul style="list-style-type: none"> <li>サステナブルファイナンスの提供</li> <li>グリーン・イノベーションやESGを意識したインパクト投資、ライフサイエンス、ヘルスケア関連の有望なベンチャー企業への投資</li> <li>超高齢社会への対応として、5-アミノレブリン酸(5-ALA)事業等を通じた健康支援</li> <li>医療情報のデジタル化やビッグデータの活用による医療の高度化に貢献</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>2030年度末までに累計5兆円のサステナブルファイナンスを組成する</li> <li>SBIグループは国家目標である2050年カーボンニュートラル実現に向けて、当社グループのGHG排出量(Scope1,2)を2050年度までにネットゼロとすることを目標とし、中間目標として2030年度までに2018年度比で33%削減する</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>2023年3月期におけるSBI新生銀行のサステナブルファイナンス実行額4,513億円</li> <li>SBIグループのGHG排出量<br/>→ P.39</li> </ul>                              |
| 将来を担う世代への支援                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>公益財団法人SBI子ども希望財団を通じた児童福祉の充実および向上に継続的に寄与</li> <li>学校法人SBI大学を通じた次世代を担う人物の育成に貢献</li> </ul>                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>SBI子ども希望財団による寄付実施累計金額は約11億7千万円</li> <li>SBI大学院大学では累計479名の卒業生を輩出</li> </ul>                                            |
| 多様な価値観を尊重し受け入れる組織風土の醸成      | <ul style="list-style-type: none"> <li>ダイバーシティ&amp;インクルージョンの推進</li> <li>従業員の能力開発を通じた人材価値の継続的な向上</li> <li>個性や人との違いを尊重できる柔軟な働き方の整備</li> </ul>                                                                                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>SBIホールディングスの女性管理職比率は2025年まで継続して20%以上を維持する</li> <li>SBIグループの外国籍社員比率は2025年までに40%以上を目指す</li> </ul>                                                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>2023年3月末における当社の女性管理職比率24.7%</li> <li>2023年3月末における当社グループの外国籍社員比率37.7%(SBI新生銀行グループを除く)</li> </ul>                       |
| 持続的成長を実現する企業体制の強化・充実        | <ul style="list-style-type: none"> <li>透明性・独立性が確保された意思決定プロセスの構築</li> <li>事業機会とリスクを想定した経営戦略の立案やリスクマネジメントの実行</li> <li>内部統制システムの整備と適正な運用</li> </ul>                                                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>グループ全体でのコンプライアンス体制構築のための会議や役職員向けのコンプライアンス研修を定期的実施する</li> <li>年に1回以上、取締役会の実効性に関する分析・評価を実施し、結果を公表する</li> </ul>                                                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>2023年3月期のコンプライアンス研修の実施(新入社員向け:9回、全従業員向け:1回)</li> <li>取締役会の実効性に関するセルフアセスメントの実施と公表</li> </ul>                           |

「サステナビリティ基本方針」「マテリアリティ(重要課題)」の詳細につきましては、当社ホームページをご覧ください



<https://www.sbigroup.co.jp/sustainability/policy.html>

SBIグループの進化を永续化させるために

## サステナビリティ指標のハイライト

## Environment

SBI新生銀行におけるサステナブル  
ファイナンス実行額

4,513 億円

(2023年3月期)

SBI新生銀行におけるサステナブルファイナンス実行額は4,513億円となっています。

SBI証券におけるグリーンボンドの  
発行支援件数/金額

42 件 / 138 億円

(2023年6月末現在)

SBI証券におけるグリーンボンドをはじめとしたSDGs債の発行支援件数は、円建・外貨建合計で42件、発行支援金額は138億円となっています。

GHG排出量

13,512 t-CO<sub>2</sub>

(2023年3月期)

SBIグループ※におけるScope1およびScope2を合わせたGHG排出量は13,512 t-CO<sub>2</sub>となっています。

→ P.39

※SBIホールディングスおよび主にグループ会社の国内拠点が対象(SBI新生銀行グループを含む)。

## Social

女性管理職  
比率

24.7 %

(2023年3月末現在)

SBIホールディングスの女性管理職比率は24.7%となっており、2025年まで継続して20%以上とする数値目標の維持向上に取り組んでいきます。

SBIグループの  
外国籍社員比率

37.7 %

(2023年3月末現在)

SBIグループ連結※の外国籍社員比率は37.7%となっており、2025年まで継続して40%以上とする数値目標の達成に向けて取り組んでいきます。

SBI子ども希望財団  
寄附実施累計金額

約 11 億 7 千万円

(2023年3月末現在)

(公財)SBI子ども希望財団を通じて児童福祉問題の解決に積極的に取り組んでおり、2023年3月期までの寄附実施累計金額は約11億7千万円となっています。

※SBI新生銀行グループを除く

## Governance

女性取締役  
人数/比率

2 人 / 13.3 %

(2023年6月末現在)

SBIホールディングスでは女性取締役を2名選任しており、全取締役計15名に占める割合は13.3%です。

独立社外取締役  
人数/比率

7 人 / 46.7 %

(2023年6月末現在)

SBIホールディングスでは独立社外取締役を7名選任しており、全取締役計15名に占める割合は46.7%です。

取締役会への  
出席率

99.0 %

(2023年3月期)

SBIホールディングスの取締役および監査役の取締役会への出席率は99.0%となっています。

## Topic 01 子どもたちの自立支援と福祉向上に向けて

SBIグループは、虐待を受ける等厳しい境遇に置かれた子どもたちの福祉向上を目的に、2005年にSBIグループの社会貢献活動を行う財団法人としてSBI子ども希望財団を設立しています（2010年に公益財団法人に移行）。

同財団では「4つの柱」として次の活動を行っています。①被虐待児童入所施設的环境向上・改善に向けた施設への寄付、②施設職員の対応能力向上に向けた研修の実施、③児童虐待防止啓発活動や児童福祉向上を目的とする福祉団体等への活動助成、④施設退所後の児童の自立支援。また、英語学習を通じてコミュニケーション能力・自信・自己探求意欲を向上させ、最終的に英語スキルを通じた自立支援の一助となるべく「英語教育支援プログラム」も実施しています。



「英語教育支援プログラム」を履修した施設の児童を対象に、ネイティブと交流できるイングリッシュキャンプを開催

## Topic 02 社会課題の解決に向けたDXの推進

SBIグループは、社外への業界横断的な技術拡散を通じて、グループ内外においてデジタルトランスフォーメーション（DX）の推進に取り組んでいます。当社グループの（株）まちのわでは、ブロックチェーン（分散型台帳技術）を活用し、デジタル商品券や給付金等の電子発行・運用のための情報プラットフォームを提供しています。またSBIビジネス・ソリューションズは、企業のバックオフィス支援のための各種クラウドシステムの提供等を行っています。こうしたサービスを提供することで、導入先における業務効率化およびペーパーレス化による環境負荷低減のみならず、提携する地域金融機関や自治体を通じた地域経済の活性化にも貢献しています。



（株）まちのわが提供するアプリの画面

## Topic 03 SDGsへの貢献を目指すSBI FXトレードの取り組み

2022年は為替変動の影響による飼料原料等の高騰で、多くの一次産業の担い手が大きな打撃を受けました。外国為替事業を主事業とするSBI FXトレードは、そうした状況下においても環境等に配慮し持続可能な一次産業の実現に取り組んでいる生産者の方々を支援したいという思いから、産直通販サイト「食べチョク」を運営する（株）ビビッドガーデンが実施する「食べチョク一次産業SDGsプロジェクト」に賛同しています。SBI FXトレードでは、SDGsへの貢献に取り組む生産者の食材を活用したキャンペーンやプログラムを実施し、FX取引を通じて顧客がSDGs活動へ参加できる仕組みを構築しています。また、2023年3月からはNPO法人アサザ基金と協働で、霞ヶ浦流域で荒廃の進む谷津田を再生する「SBI FXトレード 未来へつなぐ、田んぼ再生プロジェクト」にも取り組んでいます。

